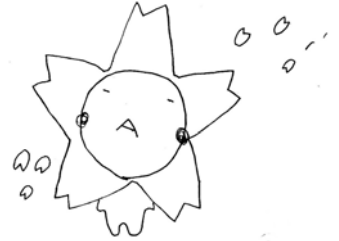


すましょうがいしゃ ちいきせいかつ しえんせんたー つうしん
すま障害者地域生活支援センター通信 第4号

まちはる



発行:平成18年4月1日

〒654-0023 神戸市須磨区戒町3-5-1

E-mail : shien-center@suma-shakyo.or.jp

☎078-735-3833/FAX078-735-3834

URL : <http://suma-net.org/>



自分の音色(ねいろ)を奏でる

すま障害者地域生活支援センター
所長 瀬戸 昭

3月11日、千住真理子さんのヴァイオリンコンサートを聴きに松方ホールに行きました。J. S. バッハのG線上のアリアなどなじみ深い曲が、名器ストラディヴァリウスによって奏でられ、心豊かなひとときを過ごすことができました。実は、彼女の演奏にはある特別な思いがあったのです。



平成7年5月、阪神・淡路大震災から4ヶ月後のことです。直後から多くの方々が神戸に駆けつけてくださいましたが、千住真理子さんもまた、震災復興のためのチャリティコンサートを開催してくださったのです。そのコンサートの裏方をしていたおかげで、演奏終了後、控え室でお茶のひとときを共に過ごすことができましたばかりか、新神戸駅まで車でお送りする機会に恵まれたのでした。音楽の話題の中で、彼女が、師事している先生から「**大演奏家の真似をしてはだめ、自分の音色を出しなさい**」と言われている、という話をされたのです。

「自分の音色を出す」っていい言葉だなといつまでも心の中に残りました。



その後、お母様の千住文子さんの著『千住家にストラディヴァリウスが来た日』を読んできましたら、「とうとう**独自の真理子トーンを創った**ね」と師事する江藤先生から言われたということが書かれていました。

また、ある時のテレビインタビューの中の彼女の話も、強く印象に残るものでした。緊張とストレスのために、ヴァイオリンが弾けなくなっていた時に、ある老人ホームのお年寄りから、ぜひ千住真理子の生の演奏が聴きたいと言われ出かけていった。十分に弾くことはできなかったが、とても喜んでくださった。「今まで、弾いてはいたが音楽がわかっていなかった。**心を癒す、いっしょに感動できる**音楽。これこそが本当の音楽だということがわかりました。」



新しい年度が始まります。障害者自立支援法の施行の中で厳しい状況を迎えますが、お互いに“**自分の音色**”をたいせつにしながら、“**他の人の音色**”を尊重しつつ、“**心を癒し**” “**共に感動できる**”ハーモニーを奏でていけたら、労苦を共にしながら前に向かって歩いていけたらと願っています。

“まちはる”。暖かい風土の中で、木や草や花が生き生きと萌え出でるように、まちなかで**一人ひとりの音色が響きあってまちをかたちづくっていく**。そのようなまちをつくっていきたくないと願うものです。

すま障害者地域ネットワークは

suma-net.org

ホームページの開設にあたって



すま障害者地域ネットワーク会議
会長 松生 胖
(こんにちは友が丘 施設長)

障害者福祉は2003年度より、かつての「措置制度」から、利用者がサービスを選択し契約する「支援費制度」へと大きく変換しました。これまで利用したくてもサービスがなかった時代から、まがりなりにもサービスを選択できることとなったため、(地域間格差はありますが)ニーズが掘り起こされ、サービスの供給量が予想を超え増大し、財政的に破綻しました。これが、今年(2006年)の4月1日より施行される障害者自立支援法の背景にあります。



三障害(身体・知的・精神)のサービスが一元的に提供されるという評価される面もあるのですが、この法律の一番の問題点は、利用者負担金が「応能負担」から「定率負担」に変わったことにあります。つまり、所得に応じての負担から、一律1割の負担に変わったのです。上限はあるものの、重度の障害のある方ほど負担が重くなるということです。

負担の問題だけではなく、障害者福祉サービスの内容・質そして利用手続きが大きく変わります。これは1949年に身体障害者福祉法が制定されて以来最大の、障害者福祉の分野の変化です。いわば、自立支援法が制定されたことにより、わが国は障害者福祉の分野において激変期に入りました。2009年度には介護保険との統合も視野に入れられております。

この激変期にあたり、利用者・家族・事業者・職員が力を合わせて、ノーマライゼーションの理念に基づき、少しでも良い仕組みとサービスをつくる努力をしていかねばなりません。

「すま障害者地域ネットワーク会議」のホームページは、神戸市の須磨区がどうこの激変期を乗り切っていくかを、リアルタイムに伝えていきたいと思っております。活動報告にとどまらず、参加メンバーの思いも綴り、活動への参加の呼びかけもしていきます。そしてこれが歴史的に貴重な記録ともなるよう努力していきたいと考えております。

ぜひ、折りにふれこのホームページにお立ち寄りくださいますようお願い申し上げます。

事務局から

「すま障害者地域ネットワーク会議」の

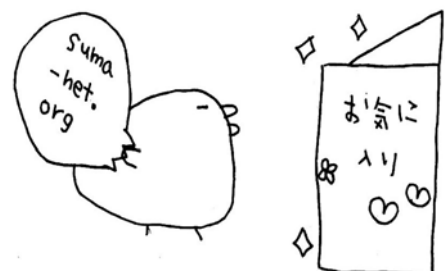
ホームページ (suma-net.org) は、

見て楽しい、癒される、それでいて参加団体の活動内容やメンバーの思いが分かるページになっています。

。ブロードバンド対応の方は、トップページと「すま障害者地域ネットワーク会議とは」のページをまずゆっくりご覧ください。

コンテンツは盛りだくさんで「すま障害者地域生活支援センター」のページもあります。

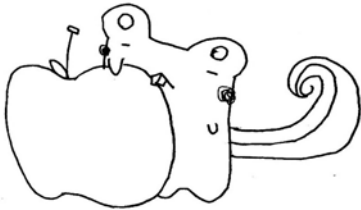
「センター通信」がPDFファイルできれいにご覧いただけます。ぜひ「お気に入り」に登録してください。



今こんな活動をしています!

福祉ガイドマップの発行によせて

SUMAPPLE ～すまっぷる～



「すま障害者地域ネットワーク会議」が2006年3月、「福祉ガイドマップ」《SUMAPPLE～すまっぷる～》を発行しました。

□この《SUMAPPLE～すまっぷる～》は、須磨区に福祉サービスを提供する施設や団体が、『地域とのつながりを考える』をテーマに、活動やイベント等の紹介を通じて地域のみなさんとの交流を深めていきたいと願い作成しました。

□中身を簡単に紹介しますと、須磨区で福祉サービスを提供するネットワークのメンバーの紹介、作業所の商品カタログ、作業所の参加しているイベントの紹介、ヘルパー事業所の紹介、といった構成になっています。

□ネットワークメンバーの紹介ページでは、活動紹介に加え、『みなさんに耳よりなお話!』のコーナーを設け、製品の紹介や各種イベントの紹介など、楽しい情報が盛りだくさんです。

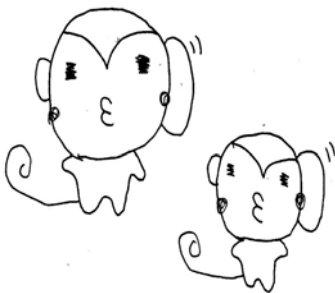
□また、製品は『カタログ』のページで、カラー写真で掲載しています。〈手づくりのぬくもり〉をテーマに紹介しています。こちらをあわせてごらんください。

□さらに、作業所が参加しているイベントを、カレンダー形式で紹介しています。地域のイベントにたくさん出店していますので、ぜひイベントにおでかけいただき、楽しいお店をのぞいてみてください。

□最後に、ヘルパー事業所の紹介ページを掲載しています。須磨区内で活動している事業所にアンケートを送り、回答のあった事業所を掲載しています。それぞれの事業所の特徴がわかりやすく載っていますので、事業所選びにご活用ください。

ネットワーク参加施設・団体 (2006年3月末現在)

| | |
|----------------|---------------------------|
| 1. 神戸愛生園 | 16. ライフスペース・プロペラ |
| 2. 神戸聖生園 | 17. ワークホーム須磨 |
| 3. 神戸有生園 | 18. 神戸手をつなぐ育成会須磨支部 |
| 4. こんにちは友が丘 | 19. 神戸市重度心身障害児(者)父母の会須磨支部 |
| 5. 救護施設ヨハネ寮 | 20. 須磨区肢体障害者福祉協会 |
| 6. 明芳デイサービス | 21. 須磨区視力障害者福祉協会 |
| 7. 小春日和 | 22. 須磨区聴力障害者福祉協会 |
| 8. じゅうしん須磨寺 | 23. 神戸市立青陽高等養護学校 |
| 9. すまいる・フレンズ | 24. 神戸女子大学文学部社会学科 |
| 10. せいれいサービス | 25. 神戸医療福祉専門学校須磨校 |
| 11. 友が丘作業所 | 26. ヨハネ地域生活支援センター |
| 12. ひまわり・スイーツ | 27. すま障害者地域生活支援センター |
| 13. 萌友=for you | 28. 須磨区社会福祉協議会 |
| 14. ぼちぼちはうす | 29. 須磨区保健福祉部健康福祉課 |
| 15. ヨハネ小規模作業所 | 30. 北須磨支所保健福祉課 |



こころの病を考える シリーズ vol.1



Aさんとの出会い

今年の桜が散って、あじさいが雨にぬれる季節が来ると当センターは開設2年を迎えます。様々な方々との出会いがあり、多くの大切なことを学ばせていただきながら歩んできました。

Aさんは、10代後半に心の病を発病し、これまでに6回入退院を繰り返されました。なかでも、阪神大震災で自宅が全壊し避難所暮らしのあとの3年半に及ぶ入院生活は、Aさんにとって最もつらくしんどい時期だったろうと思われます。

「もう終わりや、もうあかんわ」開設当初からセンターによく電話をくださるAさんに、どう関わっていけばよいのか戸惑いながらも、当センターにはヨハネ地域生活支援センターの分室もありますので、ヨハネのスタッフに助言を仰ぎながらの関わりが始まりました。

孤独感・疎外感・抑うつ気分が苦しむAさん。自分以外のみなが偉く見え、どうしようもない劣等感にさいなまれたり、人間関係でのつまずきから立ち直れず被害的になってしまうこともありました。

わたしたちは、Aさんの話を伺いながら「あなたは、決して孤独ではない。支えてくれる多くの人の顔を浮かべてください。」「仕事が出来なくても、作業所に行けなくても、病院を退院して地域で暮らしている、それだけであなたは素晴らしい。」一貫してこのような肯定的メッセージを伝え続けてきました。



Aさんとのお付き合いのなかで、小学校の頃から吉本新喜劇のファンで、クラスメイトを笑わせるのが大好きだったこと、カラオケが好きで替え歌もつくること、などが分かってきました。そこで、男性のコーディネーターは『ギャグお笑いシリーズ』を、女性コーディネーターは『短歌・俳句シリーズ』を、Aさんに作ってもらう働きかけを始めたのです。

ギャグや短歌・川柳が浮かんだら、Aさんに電話をかけてもらうのです。「出来ました！これどないですか？」「面白い！座布団1枚！」「ほんま？やった～！！」。「こんな短歌出来ました！」「ちょっと抽象的かも。もっと気持ちをみつめてみたらどんな感じになる？」・・・。

これまで「もう、あかん。終わりや」と訴えていたAさんにとっても、わたしたちにとっても、楽しいコミュニケーションになっています。

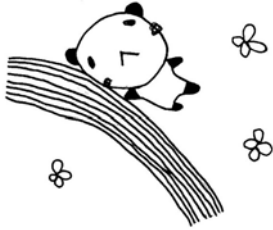
Aさんのギャグ集・短歌集から、ごく一部を披露させていただきます。

- ✚ 「みんなから冷たくされると思うんは、そりゃあんた病気やで」「そうやねん、わい冷え性やねん」「なんじゃそりゃ！」
- ✚ 東京のヤクザの親分が怒鳴った。「てめえら、ワイドショーなんか見るんじゃねい！」大阪出身の子分がべそかいてつぶやいた。「わい、どうしよう？」
- ✚ 涙出る みんなの気持ちがひとつになって 励ましてくれる このほくを
- ✚ 夜寝れず ツーアウト満塁 9回裏 野球部の僕が 接戦している
- ✚ 作った歌を 心のハードル 飛び越えて 知人に渡すと 思わず握手

格差の拡大が論議されている日本社会において、こころの病に苦しむ方が地域で暮らしていくのは大変なことです。まだまだ、差別や偏見もありますし、仕事に行けないプレッシャーは並大抵のものではありません。

そんななか、Aさんはこの秋、退院7周年を迎えます。Aさんの苦しい道のりは、今後病院を退院されて地域に帰ってくる5万人の方々の希望となるに違いありません。

Aさん、これからも震災後の神戸の街でいっしょに生きていきましょうね。



プリズムの向こう

NPO法人 Gネット
代表 藤原 靖子

阪神・淡路大震災から、11年がたちます。

「十年一昔」とは、本当によく言ったもので、あれほどに、一切思い出したくなかった地震の記憶を、ホンの少しずつですが、たどれるようになってきました。

これまでの十年間、テレビのドラマでも山崩れや火事、ましてや地震の映像などが場面で現れると、突然に恐怖と動てんが襲ってきて、いい年をしたオバサンが、引きつったように泣き出してしまったものでした。

神戸では、みなさんよくご存知の症例「PTSD(心的外傷後ストレス症候群)」というものです。

わたし自身これまで心理学をやっていたにも関わらず、自分がその体験をしてみないとわからない、いやその身になって初めてわかる、ということを知りました。そして同時に「こころ」の不思議をあらためて思い知りました。

「こころ」というのは、目に見えないけれど、つくづく不思議なものです。美しい楽器は、どんな時にも、同じキーをたたけば少なくとも同じ音程を奏でてくれます。人間の言葉も、とても美しい楽器だけれど、でも、ふりかかってきたのがたとえ同じ出来事だったとしても、人間はその時の「こころ」のありようによって、全く違った反応を起こしてしまいます。

人との出会いは「こころ」が重なります。

哀しみや苦しみ、そして喜びを、大人と大人、子どもと大人、子どもと子ども、色々な出会いを通して、「こころ」のプリズムから透けて来る虹色同士に、重ね合わせてみたい、とよく思います。



事務局から

障害児の親のためのカウンセリング

- ◇ にちじ：個別に相談（予約制）
- ◇ ばしょ：すま障害者地域生活支援センター
- ◇ 相談員：藤原靖子さん
- ◇ 連絡先：Tel 735-3833・Fax 735-3834

- * さまざまな悩み・ご相談をゆっくりうかがいます。
- * ご連絡おまちしています。



4月のまちかど情報

第7回 いたやど・まちかど講座

聞こえない人の生活のしづらさを想像できますか。
幼少時から聞こえない人、中途失聴の人、聞こえ方や程度のちがい
など、さまざまな特性をもつ聴覚障害について学びます。

～きこえないということ～

- お 話 : 鈴木奈麻美さん
- と き : 平成18年4月22日(土)
14:00～15:30
- と ころ : すま障害者地域生活支援センター
(地下鉄板宿駅 南④出口すぐ)
- 定 員 : 20名
- 申込み : ☎ 735-3833 ・ FAX 735-3834



まちかどギャラリー 小規模作業所 パネル展

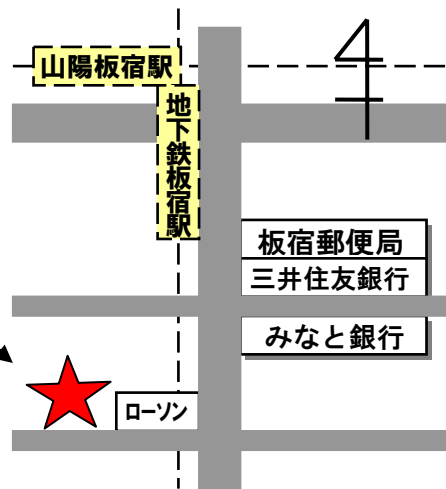
■ 期間 ■ 4月17日(月)～4月23日(日)
10:00～16:00

■ 場所 ■ すま障害者地域生活支援センター

「働きたい」「社会参加したい」「自分らしく生きたい」みんな思いは同じ。
私たちの町にある、障がいのある人たちが通う、11の作業所の活動を紹介します。
自主製品の展示販売も!!

すま支援センターの事業内容

- * 地域生活に必要な制度やサービスの情報提供や、利用のお手伝い。
- * さまざまな内容のご相談の受付。
- * 支援費制度の相談・受付・調査。
- * ピアカウンセリングの実施。
- * 地域啓発事業の実施
(まちかど講座・まちかどギャラリー)



編集後記



～♪ 交わらない♪天と地をおお～♪ ぼくらの心があ♪ つなぐううう♪～
先日出かけたコンサートで、ASKAが歌っていました。悲しみや怒りに満ちているようでいて、実は、**世界は愛に満ちている!**さあ、春のきらめく光の中へみんなで大きくとびだしましょう。この通信へもどんどんご参加ください。次号から新担当へバトンタッチします。引き続き応援くださいね。(N)